

発見、失敗、助け合い

歩き始めた子どもたちは、1万分の1の地図とコンパス、そして仲間との話し合いを頼りに、次々とチェックポイントを見つけていきます。「地図のここに『文』って書いてあるから、もうすぐ学校があるよ」「あそこに見えている富士山は国道の向こう側にあるはずだから、進むのは逆の方向だよ」と、持っている知識をお互いに交換しながら、課題をクリアしていく姿にたくましさを感じます。道を間違えたり、チェックポイントのゲームがうまくいかない時も、「大丈夫、まだ時間はあるよ」と鼓舞する声が何度となく聞かれました。



この問題は難しいぞ！解けるかな？

生まれて初めての魚釣り

この日一番のハイライトは、湧水で育ったマス釣りに挑戦するチェックポイント。魚の動きがはっきりと見えるほど澄んだ水の釣り堀で、餌をつける作業や投げ込むポイント、竿を引き上げるタイミングなど、地元みなさんに教えていただきながら、子どもたち全員が自力で魚を釣ることができました。中には「生まれて初めて釣った！」と興奮気味に魚を見せてくれる子も。釣れた魚はその場で内臓を抜いて塩焼きにしてもらい、お弁当と合わせて贅沢なランチタイムになりました。自分で釣った魚を自分で食べるという経験も、いつもの食生活とは少し違った視点を持つきっかけになったことでしょう。



やった！釣れたよー！！



自分で釣った美味しいマスをいただきます♪

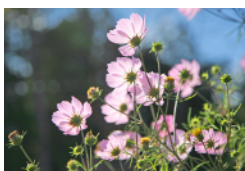
ついにゴール！そして大切な振り返り

制限時間が近づくと、各チームの動きも慌ただしくなってきます。時間オーバーは減点対象となるため、安全策で早めにゴールするチーム、ギリギリまでチェックポイントを回るチームと、さまざまです。最終的には参加者全員がケガもなく、無事にゴールテープを切ることができました。運営スタッフによる採点を待つ間は、活動の振り返りです。仲間同士でお互いの発言・行動・その時の気持ちについて感想を述べ合う中で、「〇〇さんに助けられた」「みんなで協力したからクリアできたと思う」など、仲間存在を肯定的に捉える言葉が多く聞かれたことが印象的でした。その後の結果発表と表彰式で明確な順位が出た際も、それぞれのチームに惜しめない拍手を送り合う姿はたいへん微笑ましいものでした。



上位入賞の結果発表に思わずガッツポーズ

最後は富士山をバックに、みんなで記念撮影。これまで私たちが当たり前だと思っていた日常は、コロナ禍で一変しました。しかしこの日の子どもたちの表情からは、屈託のない明るさを感じられ、見ているこちらが勇気づけられるようでした。自然との触れ合い、刺激적인環境、世代を超えた人々との交流、それらを体験する場があることで、子どもたちはどんな時代でも楽しむ術、学ぶ術を持ち合わせているということを再認識できました。次回の交流集会ではどんな笑顔に会えるのか、スタッフ一同楽しみで仕方ありません。



この事業は「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて実施しています。